

作品の概要

子育てに希望を! 児童虐待のない社会のために [19分]

■プロローグ■山田彩香さん(仮名・34歳)は、今、生後4か月の赤ちゃんの子育てに不安を感じている。

「また泣くの!」「いい加減にしてよ!」親にとって子供はかわいく、いとoshiiものであるはず。ところが…。

■なぜ、子育てに不安を…■飾られた赤ちゃん誕生の時の写真。彩香さんは、赤ちゃんが誕生した時は思わず涙ぐんでしまうほど喜んだ。でも、子育ての不安と自信の喪失。その背景には、子どもはどのような存在なのか、なかなか理解しにくい、母親の抱える問題がある。

■埼玉県和光市の取り組み■和光市とNPO法人とが連携して運営している子育て広場。子育ての不満や悩みに耳を傾けてくれる相手がいるだけで、子育てのストレスは軽くなると、ほとんどの母親が言う。現在、このような子育て

<監修 日本社会事業大学 専門職大学院 准教授 宮島清> て広場は、全国の市町村に広がっている。

■訪問型子育て支援■子育て広場にでかけられないほど深刻な悩みを抱えた母親もいる。そうした母親の元への訪問型子育て支援が注目されている。Tさんは、初めての子育てで大きな不安を抱え、毎日がパニック状態だったという。1週間に1回の訪問支援を受け始め、子どもの成長が楽しくなっていた。

■立ち直った山田彩香さんの場合■子育てに絶望していた彩香さんも、相談窓口を探して電話をしてみた。そして子育ての先輩ボランティアの訪問を受けた。今、各自治体は、気軽に子育ての悩みを受ける環境を整えている。悩みを抱えたときに、遠慮することなく支援を求めること、これが児童虐待のない社会を作る第一歩となる。

企画・制作統括 高木裕己

演出 細見吉夫

ライブラリー価格 ¥65,000 (本体価格)

なぜ、介護者が虐待を… 介護者支援から高齢者虐待のない社会へ [24分]

■プロローグ■65歳以上の高齢者に対する虐待件数が増え続けていることが、厚生労働省の調査でわかった。死者数も増加しており、事態は深刻になるばかりだ。では一体、どのような虐待が増えているのだろうか。

■高齢者虐待の事例■暴行と言葉の虐待を再現ドラマで捉えていく。82歳の認知症の母親を介護する57歳の息子。排泄の失敗が続いたことで、息子はつい手を挙げてしまう。老人夫婦のネグレクトや、経済的虐待の問題も描きながら、高齢者に対する様々な虐待の背景には、介護者自身が問題を抱えているケースが多いことを訴える。

■高齢者虐待防止法について■高齢者虐待防止法は、平成18年4月1日から施行されている。この法律の重要なポイントは、従来陰に隠れていた虐待の早期発見を打ち

<監修 駒澤大学 文学部 社会学科 准教授 荒井浩道>

出したことだ。しかし、家庭内での虐待は外からは見えにくく、深刻化しやすい。もし、周囲の人々が、虐待の兆候に気づいたときの連絡方法なども図解していく。

■杉並介護者応援団の取り組み■高齢者虐待防止法のもう一つの重要なポイントは、介護支援。介護者同士が集い、語り合う、「介護者の会」の活動を捉えていく。介護者という仲間と知り合い、語り合える。そのことが、心の負担を軽くしていく。

■支援するネットワークを利用しよう■介護者は、社会のケアを積極的に活用することで、介護の負担が軽減され、心の余裕が生まれてくる。介護の悩みを抱えていたら、まず自治体に相談しよう。高齢者虐待を防ぐには、行政と自治体が緊密に連携し、地域社会を見守っていくことだ。

企画・制作統括 高木裕己

演出 北西洋一 / 村岡麻世

ライブラリー価格 ¥65,000 (本体価格)